

# この本の使い方

## 1 プログラムのカテゴリー

前述のように、環境教育・環境学習の扱う範囲は非常に広範囲で、児童・生徒の発達段階によっても大きな差があります。

そこで、本書では和歌山県の中学校の先生方が環境教育・環境学習を推進するにあたって参考となるプログラムを、おおまかに「生き物」と「土・水・大気」、「人間による活動」の3つのカテゴリーに分けて紹介してあります。

「生き物」には、動物や植物などに親しみ、その体験を通して理解できるようなプログラムをたくさん紹介しました。

「土・水・大気」では、調査活動などを通して生き物を取り巻く無機的環境について学ぶことのできるプログラムを扱っています。

「人間による活動」には、エネルギーや地球温暖化を扱った問題、ごみや資源、食やエコライフなどの私たちの生活に直接関わる問題を扱っています。

## 2 各プログラムの構成

本書は基本的に指導者用として作成しました。各プログラムは、基本的に「概要」、「ねらい」、「準備物」、「方法」、「ワークシート」、「参考資料」の流れで構成されています。

また、ひとつのプログラムを単独で使う場面を想定して、できるだけ終始完結型となるように作成しています。

「ワークシート」は、授業などですぐに使用できるよう配慮して作成しました。必要に応じて、印刷やコピーをして使ってください。また、各学期や年間のプログラムを作成するときに参考にいただければ幸いです。（なお、学校教育以外で、転載する場合は許可を得てください。）

## 3 環境学習プログラムを活用する時間

学校で環境学習を扱う時間としては、理科や社会科などの教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間などが想定されます。この本では、これらの時間の枠にとらわれないようなプログラムを紹介しています。それぞれの地域の特性や学習者の実態に合わせて、必要に応じてプログラムを選んだり、アレンジして使ってください。

## 4 指導者の役割

感動した経験からひとの学びは始まります。指導者が単なる知識の伝達に終始してしまえば、子ども達に感動を伝えることはできません。指導者の役割は、学習者自身が価値あるものを見つけ出し、どう行動するべきかを考え、自ら選択し、行動していける能力を身につけるためのサポートをすることです。つまり、指導者は、様々なプログラムの進行を通じて、直接または間接的に学習者と関わり、学習過程を助ける役割を担います。そのためには、内容を単なる知識として教えるのではなく、主体的で体験的な活動を通して、共感して「心をゆり動かす」ことが欠かせません。

また、指導者自身も環境教育・環境学習に関する行事に参加することで研鑽を深め、環境問題に対応できる能力を高めていくことも大切です。